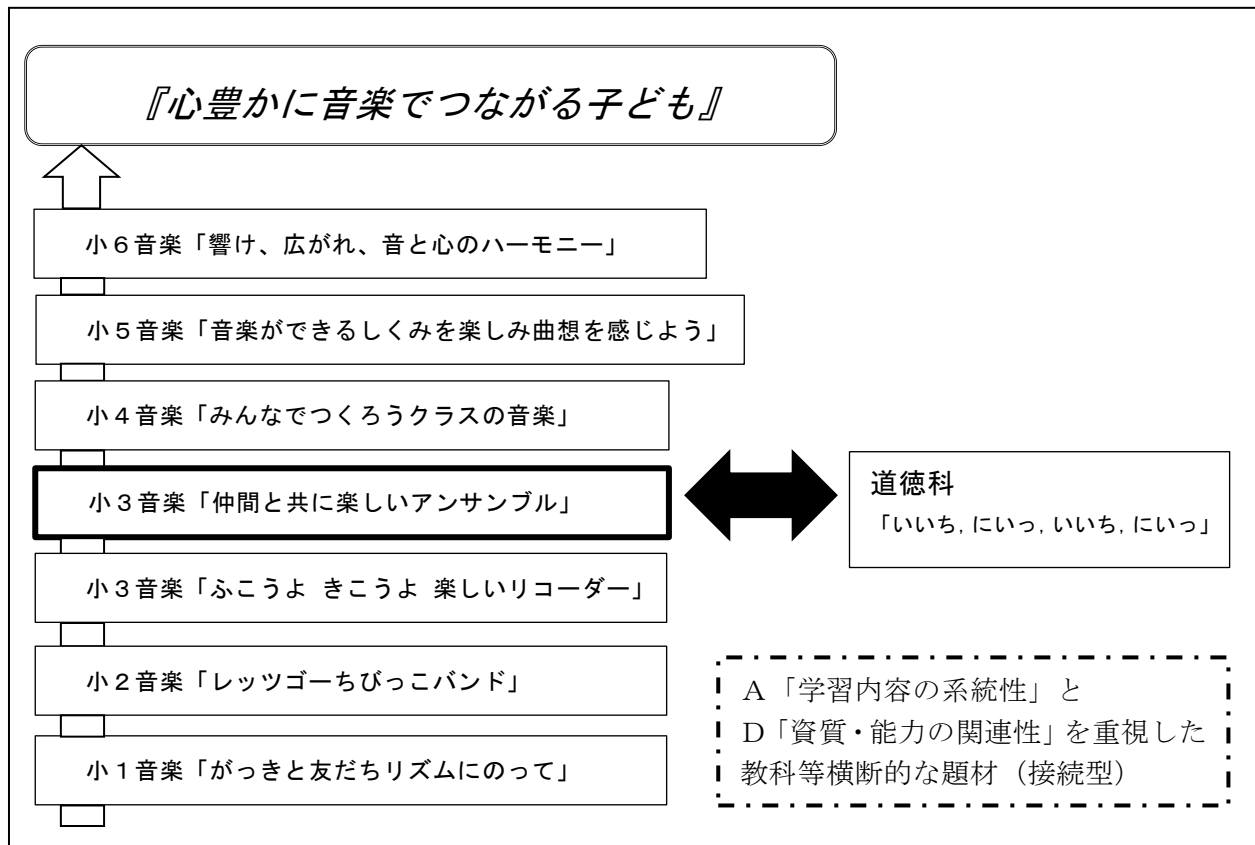


【実践事例】

第3学年

仲間と共に楽しいアンサンブル 音楽科（+道徳科）

【題材全体構想について】



本学級の子どもは、音楽が好きで音楽が流れると一緒に口ずさんだり、拍子に合わせて自然に体を揺らしたりする子どもが多い。また、3年生になりリコーダーという新しい楽器に出合い、器楽合奏への関心が高まっている。前題材「ふこうよ きこうよ 楽しいリコーダー」では、リコーダー奏を楽しみながら表現の工夫を模索している姿が見られた。また、2学期に行われた「わくわくコンサート」を鑑賞し、6年生の器楽合奏に憧れを抱いた子どもが多くいた。様々な楽器を演奏したり、友達と合奏したりしたいという思いを膨らませ、それらの演奏の仕方への興味・関心が高まっている。しかし、楽器を演奏したり楽譜を読んだりする知識や技能の差は大きく、自分のパートを演奏することに精一杯になり、互いのパートを聴き合いながら演奏することに難しさを感じている子どももいる。

本題材「仲間と共に楽しいアンサンブル」では、パートの役割について初めて学習し、クラス全体の大合奏や少人数でのアンサンブルに挑戦する。子どもたちの「6年生のように息の合った演奏がしたい」という思いを大切に授業を進めていく。音楽的な「見方・考え方」を生かしながら、演奏の仕方や音量のバランスなどを工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図を持ってほしいと考えている。また、道徳科の授業で育んだ内容項目[友情、信頼]「友達と互いに理解し、助け合っていこうとする態度」を想起させながら、互いの表現のよさを認め合い、考えを共有・交換できる場を設定する。そうすることによって表現の違いや面白さに気付いたり、自分たちなりに価値付けたことを見詰め直したりしながら、よりよい音楽を求めて主体的に活動できると考えた。

友達と聴き合ったり、認め合ったりしながら音楽的対話を繰り返すことで、心豊かに音楽でつながる子どもが育つことを願い、本題材を構想した。

【題材（音楽科）のねらい】

- 曲想と声部の役割など音楽の構造とのかかわりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために、互いの楽器の音や声を聴き合ったり、合わせて演奏したりする。
- どのように演奏するかについて思いや意図を持ったり、曲想に合った表現を工夫しようとしたりする。
- 友達と協働して、声を合わせて歌ったり、合奏したりする学習に進んで取り組もうとする。

【題材の展開】（全 15 時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い	<p>私たちが楽器を組み合わせて合奏してみたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パートの音取りを進めたり、仲間と音を合わせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の見通しを持ち、様々な楽器を演奏したり、歌ったりすることに興味を持っている。 	2
追 究	<p>仲間と共に楽しくアンサンブルをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パートの役割について知り、アンサンブルや合奏をしながらそれぞれの楽器のバランスについて考える。 ○ 楽器の音色が重なり合う響きを感じ取ったり、聴き取ったりしながら演奏することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パートの役割を理解し、表現を工夫しながら演奏したり歌ったりしている。 ● 仲間と共に合奏や合唱奏を楽しんでいる。 	11
振 り 返 り	<p>合奏やアンサンブルを聴き合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合奏の響きを互いに聴き合う。 ○ 全員で合奏を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 互いの演奏のよさに気付き、自分の表現に生かしている。 ● 合奏全体のまとまりについての考えを持ち、自分なりの表現をしている。 	2

【題材の実際】

「出会い」の場面

11月に行われた校内音楽会「わくわくコンサート」を鑑賞して、6年生の器楽合奏に憧れを抱いている子どもに、器楽合奏に挑戦することを伝え、題材の見通しを持たせた。子どもたちは「ぼくたちも6年生のような演奏がしてみたい」「楽しみ」「何の楽器をやってみようかな」「お客さんを呼んで発表できるといいな」など器楽合奏への意欲を高めていた。楽曲がミッキー・マウス・マーチであることを知り、楽譜を見た子どもたちは「今まで見た楽譜に比べて、たくさん段がある」「メロディは鍵盤ハーモニカかな」「難しそう、できるかな」「はやくみんなで合わせてみたい」など、今までに蓄積された“音の記憶”を生かし、新しい音楽との出会いを楽しんでいる姿が見られた。

パート練習が始まると、友達と協働して譜読みを進めたり、表現を工夫しようとしたり姿が多く見られた（写真1）。楽器を演奏したり楽譜を読んだりする知識や技能



振り返り（抜粋）

- 入るタイミングがうまくできなかったけど、友達が教えてくれてできるようになった。
- 友達がやさしく教えてくれたので、うれしかった。

写真1 パート練習の様子

に難しさを感じている子どもも、友達と一緒に演奏したり声を掛け合ったりすることで、音楽の力で他者とつながるよさを感じながら活動していた。

「追究」の場面

曲想に合った表現の工夫について考えながらパート練習を進めていった。しかし、子どもたちの振り返りシートには、「リズムや音を正確に演奏しているか」について書いている子どもが多かった。そこで、教師が「みんなが演奏するミッキーマウス・マーチのミッキーはどんな様子かな」と投げ掛けた。すると、子どもたちは「スキップしていてルンルン!」「楽しくて、笑顔なミッキー!」「ミッキーがスキップで遠くから歩いてくる感じ」という考えや思いを伝え合った。そこで、教師が「リズムや音を一つ間違えなかったらスキップしているミッキーになるかな」「楽しくて、笑顔なミッキーになるかな」と問い掛けた。すると、子どもたちは「音色も大切かもしれない」「テンポが遅すぎるとのそのそ歩くミッキーになる」「音を短く演奏するとルンルンになるかも」など、音楽を知覚・感受しながら表現の工夫を考えることができた。



写真2 練習風景

練習が進むにつれて、違う楽器同士で集まって互いに聴き合ったり、アンサンブルをしたりしながら、よりよいものをつくり上げていこうとする姿勢や取組が自然と広がっていった。また、道徳科の授業で育んだ内容項目[友情、信頼]「友達と互いに理解し、助け合っていこうとする態度」を想起させながら、互いの表現のよさを認め合い、考えを共有・交換できる場を設定していった。そうすることによって、音楽の力で仲間とつながり、仲間の音を感じながら表現し、他者とつながるよさを感じている姿が見られた(写真2)。

子どもたちの思いや意図をより表現に生かしていくための手立てとして、教師が打楽器のバチの使い方を提案したり、子どもたちの様々な表現を全体で紹介したりした。また、子どもの発言やワークシートから音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みにかかわる言葉を拾い上げ、共感したり賞揚したりした。そうすることで、子どもたちは音楽的な「見方・考え方」を働かせながら自分自身の“音の記憶”と向き合い、より深く自分の表現と向き合っていた。

ワークシート(抜粋)

- スタッカートで楽しい表現をしたい。
- ウッドブロックやピアノを聞くとテンポが取りやすい。
- ミッキーがだんだん近付いてくる様子を表現したいから、最初の繰り返しのところは弱い音から始めてだんだん強くしたいな。
- ルンルンした感じを表現するためには速さが大事だな。

「振り返り」の場面

授業の最後に自分たちの演奏の録音を聴くことで、友達や自分の演奏のよさに気付いたり、客観的に成長を実感したりしながら、アンサンブルの楽しさを味わうことができた。また、音楽の力でつながる心地よさや音楽を創造することに喜びや手応えを感じた子どもたちは、自分たちの成長を見てほしい気持ちや発揮したいという思いが高まり、発表会を開催することになった(写真3)。



写真3 発表会の様子

発表会当日は、伝えたい思いを演奏に込めて素敵な合奏を披露することができた。このように発表の機会があることで、自らの成長を自覚したり自分たちなりに価値付けたことを見詰め直したりしながら、よりよい音楽を求めて主体的に活動する姿を見ることができた。

発表会の振り返り(抜粋)

- 自分がえんそうしている時や聞いている時はきんちょうしていたけど、聞いている人によるこんでほしいと思ってえんそうすると楽しくひいたりふいたり歌ったりできました。たくさんの人が見に来てくれてとてもうれしかったです。来年のワクワクコンサートも楽しみです。
- 強弱やスタッカートに気を付けてえんそうして、楽しくミッキーがえんそうできました。遠くからスキップしているミッキーになりました。はくしゅをもらってうれしかったです。
- 先生や友達に教えてもらったことを 100%いかして、今までで 1 番いいミッキーになりました。4年生になったらもっといい音でえんそうしたいです。
- 発表会が終わった後、友達に「上手だったよ!」と言われて心があたたまりました。



【題材の成果と課題及び最終年次の実践に向けて】

- 「6年生のように息の合った演奏がしたい」という思いを大切にして授業を展開したことで、自分の表現に向き合う姿の実現につながった。
- 「追究」の場面で、どのように演奏するかについて思いや意図を持たせたことで、子どもは表現の工夫のよさや違いに気付き、友達の思いや考えを認め合いながら対話することができた。そして音楽を創造することに喜びや手応えを感じている姿が見られた。
- 子どもの自己評価については、子ども自身が自分の学びを見詰められる振り返りにつながるように、振り返りの視点を絞ったり、ワークシート等を工夫したりする必要がある。
- ☆ 「深い学び」を実現する過程を積み重ねていくために、心の動きや表現の変容を見取る方法について今後も継続して探っていきたい。

(松本 一菜)